The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「コロナ禍は未だ続く」
Author(s)	浦西, 友樹
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2022, 22, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88586
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

コロナ禍は未だ続く

サイバーメディアセンター 情報メディア教育研究部門
准教授 浦西 友樹

未だ世の中は COVID-19 の影響を受けている。2019 年末ごろから始まったこの未曾有の出来事は、世の中の流れを全て変え、2020 年には「2021 年にはなんとか元の生活を…」と念じながら自粛生活を送る日々であった。日本国内においては 2021 年の春過ぎからワクチン接種が進み、2021 年秋にはいったん収束の兆しを見せたものの、2022 年始にはオミクロン株の置き換わりによって感染者数が爆発的に増加し、2020 年の悪夢が脳裏をよぎる状況となっている。

一方で教育に目を向けてみると、2020 年度より大学の授業は全面オンライン化に移行した。それに伴って、大学教員は必死の思いでオンライン授業へ順応し、結果として大学教員のオンライン授業に関するリテラシーやスキルが飛躍的に向上したことは疑う余地がない。テレビ番組やインターネットでは、大学教員により「最近の大学教員の仕事はほぼ YouTuber と同じ」と語られることがあるが、まさにその言葉は正鵠を射ており、今日の大学教員が有する録音・映像編集・配信のスキルはコロナ禍以前と比較して劇的に向上していると言えよう。

さて、オンライン授業においては、一授業あたり多ければ数百人、時には数千人の受講者に向けた動画配信および教材の配布が必要となる。例えば本学の学生数は、学部生 15,075 名、大学院生 8,151 名 (令和 3 年 5 月 1 日現在、以下同様) を数え、旧帝大で最多である。また、教員の数も 3,357 名 (非常勤を除く) であり、合計すると本学におけるプラットフォームのユーザー総数は 25,000 名を優に超える。一方で 2021 年度に開講され、本学の Learning Management System (LMS) である大阪大学 CLE に登録されている授業数は 7,078 であり、同時に利用するユーザーの数も 10,000 に迫ることが多く、システムには多大な負荷がかかる。その一方で、学生の成績評価に直結するため、LMS を用いて実施させるオンライン試験におけるシステムの安定性やセキュリティ、さらには学部を問わず多くのユーザーが利用するにあたってのユーザーインタフェースのわかりやすさなど、システムへの要求は数多い。

本学の LMS である大阪大学 CLE は 2013 年に旧 WebCT を引き継いで、Blackboard Learn を用いたサービスを開始しており、コロナ禍の直前である 2020 年 3 月からクラウドサービスに全面移行した。また、講義収録配信システム Echo についても 2017 年よりクラウドサービスに移行しており、先進的なクラウドベースのサービスを全学規模で提供し続けている。本学においてはコロナ禍以前よりオンライン授業に関わるシステム運用のノウハウが蓄積していたことから、2020 年にオンライン授業に急激に移行した際においても、システムの完全停止を伴う大規模障害を一度も発生させなかった点は、本学システムの安定性を証明する事実である。

このような状況においてシステムを安定稼働させた事実は、システムベンダの多大なる貢献なしに語ることは不可能である。平時よりコロナ禍の大変な状況に至るまで、本学の教育システムの運営に協力いただいているシステムベンダ各社には感謝の念に堪えない。本年の特集においては、大阪大学 CLE をサポートするアシストマイクロ社、講義収録配信システム Echo をサポートする SCSK 社に、「システムベンダから見たコロナ禍」と題して、苦労された点や工夫された点について語っていただいた。大学教員には気付かない苦労や、コロナ禍においてシステムベンダが行った運用上の工夫などについて、貴重な声をお聞かせいただけた。読者諸氏が本特集から何かを得ることがあれば大変幸いである。